

「わが図書館ならではの本！！」

～大隅支部 南大隅町～

先日、あるテレビ番組で世界的な絵本画家・八島太郎の生涯が紹介されました。

放映後、南大隅町教育委員会には、日に数件もの問合せがありました。南大隅町歴史民俗資料室にある八島太郎関連の展示品の紹介をしたり、今も残る八島太郎の生家の案内をしたりと、忙しい日が続き、報道の力に大変うれしい悲鳴をあげています。

今回、わが図書館ならではの本として紹介するのは南大隅町根占出身の八島太郎（1908－1994）が描いた根占三部作と名付けられている絵本です。

「子どもの学びと成長」をテーマに『村の樹』では遊び、『道草いっぱい』では大人の仕事、『からすたろう』では良き師との出会いが描かれています。学校、家庭、地域がそれぞれに役割を担い、そして、その機能を発揮してこそ初めて、一人の子の学びと成長があることをこれらの絵本から伺い知ることができます。これらの絵本は、開けば百年前の根占の風が吹き、根占の光がさす、日向の匂いがする、そんな懐かしさのある心の根っこにたどり着ける絵本です。さらに、自然と共に生きることの素晴らしさ、手造りの楽しさ、物が溢れていなくても幸福感に満たされることを感じさせてくれます。

絵本に込められた八島太郎の想いを伝えていきたい。このことが、今を生きる私たちの役目かなと思っています。